1.　評価結果概要表

評価確定日　平成20年　6月　23日

【評価実施概要】

事業所番号	2271101335
法人名	有限会社　在宅支援センターふれあい
事業所名	グループホーム　ふれあい　香貫
所在地 （電話番号）	静岡県沼津市下香貫揚原530-16 055-932-0130

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成20年2月14日

【情報提供票より】（平成２０年１月１５日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成18年3月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	15　人	常勤　4 人，非常勤　11 人，常勤換算　13.6 人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨造り	
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	68,000　円		その他の経費（月額）	22,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　72,000円）		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000円			

（4）利用者の概要（平成２０年１月１５日現在）

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5	名	要介護2	8	名
要介護3	2	名	要介護4	3	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢　平均	83.3 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	望月内科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から間もなく2年になるホームである。ホームの理念「みんな仲良く集う毎日」は、利用者や家族はもとより、職員もそうであるように、そのためには職員がここに来て良かったと思えるような職場にしたいとの管理者の想いは優しい形で其処ここに見られた。職員同士あるいは家族と職員のコミュニケーションが良く取れていることは職員ヒアリングからも確認でき、利用者の穏やかな表情はこの辺りからもたらされているものと推測された。外においては利用者が地域住民との交流の中で安心して暮らしてゆけるように、内においては利用者が和やかに穏やかに暮らしてゆけるように、今後も職員の力を併せて支えていかれるようお願いしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価で改善をお願いした項目については　殆どの項目が改善されていた。法人全体で取り組んでいる職員研修や運営推進会議に絡めた地域への働きかけ、馴染みやすい玄関周りの設え等々である。ことに申し送りやヒヤリハット等職員が共有しなければならない情報については全員のサインが並ぶ様式を作成して、確実に実行されていた。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は各ユニットリーダーが日々の介護の状況や話し合っていることを基にして全ての項目について記述したものを管理者が纏めた。自己評価は項目にひととおり目を通すだけでも気づくことが多いことから、機会を捉え全職員が読みくだくようお願いしたい。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2カ月に1回、法人代表・管理者・利用者・家族・自治会役員・近隣グループホーム職員・地域包括センター職員、大家さん等のメンバーにて開催されている。ホームの説明や報告に加え、市職員による転倒防止の出前講座なども企画して、町内会に案内を回覧して参加を呼びかけている。家族や自治会からの意見を引き出す時間枠を設けたり、近隣グループホーム職員の話を聞いたり有意義な話し合いがされ、前回からは家族会も併設したことから家族の参加も増えている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

玄関に意見箱を設けたり、家族が質問や相談事を言いやすい雰囲気作りに努め、意見や要望には迅速に対応している。運営推進会議でも家族の意見を聞く機会を設けている。家族の中には面会の際に居間のテーブルに着いて利用者とおしゃべりを楽しんでくれる方もいてホームのオープンさが確認できた。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入して、祭りや行事には準備段階から参加している。運営推進会議やホーム行事案内を組内に回覧して参加お願いとホームへの理解を深めていただくよう取り組んでおり、毎回案内には「介護についてお困りのこと、相談したいことはいつでもいらして下さい」との言葉を添えており、相談に見えた方もいる。今後、中学生の体験学習受け入れや避難訓練の協力依頼等検討されているが地域と連携して利用者の安全や生活の広がりが確保できるよう更なる取り組みをお願いしたい。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員で作り上げたホームの理念「みんな仲良く集う毎日」には「ご入居様を中心にご家族地域のみなさまスタッフなどみんなが仲良く集いその生活が続くように」という一文が付いており、地域の中で暮らしてゆくことの大切さを当初より意識していたことが確認できた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間のコミニュケーションを図り、明るい雰囲気作りを心がけるよう話し合っている。職員はコミニュケーションの良さが利用者に伝わって和やかさをもたらすことを体験しており日々謙虚な姿勢で理念に基づく環境づくりに取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、組の承諾を得た上で組長会議に出席して情報収集やホーム行事の案内を組内に回覧して参加依頼やホームへの理解を深めるよう取り組んでいる。利用者が一人で外出した際には近隣の方が連れてきて下さる事もあった。祭りには子供みこしがホームの庭に訪れ利用者を喜ばせてくれた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解して改善に活かしている。前回評価についても殆どの項目に取り組みが見られた。ことに申し送りやヒヤリハット等職員が必ず認識を共有しなければならない事柄について全員のサインが並ぶ様式を作成して確実に実行されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの説明や報告に加えて、市の職員の協力による転倒防止の出前講座なども企画して、家族はもとより、町内会に案内を回覧して参加を呼びかけている。参加者も徐々に増えつつあり家族の疑問や悩みを話し合える場所になっている。	○	有意義な出前講座等地域の方々にも是非参加していただき、地域運営推進会議の所期の目的が達せられるよう、案内・報告にて継続して働きかけることをお願いしたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護課や地域包括支援センターのバックアップによる地域グループホーム連絡会議やケアマネジメントサポート会議等出席、同業者と連携し地域のケアサービス向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員からは推進会議以外にも適切なアドバイスや協力をいただいている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個々の様子や金銭出納、職員の異動等について毎月お便りでお知らせしており、健康状態の変化には随時電話で連絡を取っている。利用者の行事や日常の様子を綴ったブログが折々に更新されて、家族や遠くの親戚にも良い近況報告となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が質問や相談事を言いやすい雰囲気作りに努めており、出された意見や要望には迅速に対応している。家族からは「不満に思うことを職員に伝えると直ぐに対応してくれる」との言葉があった。具体的な例として、職員の名前が分からないとの意見を受けて、名札の装着を実施した。	○	家族としては、些細なことはつい遠慮がちになることもあるので、満遍ない聞き取りをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の思いを聞く機会を定期的に持っている。理念の「みんな仲良く集う毎日」には職員にもそうありたいとの思いが籠められて、職員の誕生日を祝ったりボーリング大会を催して親睦を図っている。新入職員にはホーム利用者や職員の紹介を含め決まり事等を記入したお便りを渡し、スムーズな引継ぎに配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の社内研修が定期的に実施されており、職員はそれぞれに相応しい研修を受講している。外部研修については研修内容を公表して多くの職員が受講出来るよう図っている。新人研修は7回にわたり指導者に同行して、利用者個々の特徴やホームの方式を習い先輩職員と認識を共通するよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会議で定期的な意見交換をしている。また、系列のグループホームとの交流はもとより、他社のグループホーム見学や運営推進会議の出席等毎回2～3名の職員同行による相互訪問が行なわれており、視野を広げサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の生活歴や状況に関する情報を本人や家族から収集して、出来るだけこれまでの生活が継続できるような支援を実施している。お試し入居によってホームの雰囲気を感じていただきその上で利用を決めたケースもある。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のみならず、職員の誕生日も皆で祝うなど、家族のような交流を楽しんでいる。また、小さな畑を共有し開花や収穫を楽しんでいるが、職員は利用者から畑仕事の指導を受けるなど、相互関係を構築している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより、本人、家族からの聞き取りが良く出来ている。本人の意向の把握が困難な場合は、リーダーを中心に観察、検討が充分に行なわれた上で家族と相談し意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや介護計画は良く検討されており整った書類になっているが、ケアマネージャーの変更等によりやや混乱が見られる。また、ホームの独自性が盛り込まれていない。	○	ケアマネージャーの変更に伴う書式の変更があり、現状についてはやや混乱している。現体制が早く落ち着き、ホームの独自性を盛り込み、職員が一体となって作成する生活感のある介護計画を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の評価、見直しが整然と行われている。関係者、家族との話し合いの場を良く設けており、緊急な見直しにも対応している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣との関係に重点を置く姿勢が見られ、通院介助や外出支援が適切に行われている。また、家族や近親者の宿泊、食事に対応できる体制が常時整備されている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の提携医との関係が良好で、往診や外来時には充分に配慮した対応が受けられている。迅速に対応するため、かかりつけ医の変更などにも適切に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルについての研修、勉強会を定期的に開催し理解を深めているが、知識、技術ともに不安を抱えている。	○	若い職員が多く、死の受容についての心理的不安がある。今後、研修、勉強会を重ねる中で無理なく自然な形でターミナルを受け入れる体制を構築する事が望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドや羞恥心に対する対応について職員各々がよく理解している。ケース記録は鍵のかかる棚に整理され利用者や外来者の目に触れないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の個性を尊重し、強制や規制を出来る限り排除しようとする姿勢が見られた。職員が利用者のペースで行動している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度、配膳、片付け等、声かけするまでもなく利用者が主体的に参加している。職員が共に食事を摂ることで、会話を楽しみながら笑顔で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	目安となる入浴日を決めてあるが、それに拘ることなく自由に入浴できる体制を整えている。また、同性介助を適用しており、羞恥心への配慮もされている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が、洗濯物をたたむ、食器を整理する等の役割分担を自主的に担っている。また、手作業や趣味などを適度に取り入れる、散歩を楽しむ等の気晴らしにも配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への外出は活発に行われている。また、地域の行事にも積極的に参加している。今後は宿泊外出も計画中との事で、利用者の楽しみが広がっている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去の記録では、家族の依頼により鍵をかけていた経緯が見られたが、現状では施錠は一切行われていない。施錠しない事が職員全体の共有の意識となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は整然と実施されており問題はないが、避難訓練が不十分である。住宅密集地であり、火事、地震等の災害時の避難には不安がある。	○	日中のみならず、夜間においても常に避難経路を確認し利用者の安全を守るための訓練が望まれる。特に夜間においては近隣住民、消防団等との密接な関係作りが安全確保の基本となる事を認識した訓練が望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立が利用者の希望で決まる事は好ましいが、塩分や栄養バランス、水分摂取への配慮にやや欠ける傾向が見られた。	○	食事摂取量のみではなく、利用者全員の水分摂取量の記録が望まれる。また、職員研修等にて栄養士等の専門家からの指導を受ける機会を作る事も望まれる課題である。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には畳のスペースもあり、利用者にとって居心地の良い場所となっている。敷地内に花壇や畑があり利用者の季節感を養っている。季節の飾り物等もさりげなく配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ち込む人、嫁入り道具の桐の箪笥を大切に使う人、利用者が各々その人らしい空間を所有し、個々の生活を営む部屋作りになっている。また、段差のない安全な設計であることが利用者の自立支援となっている。		